

クラス通信

3月号 2022年3月15日発行

クラスユニック高校部

クラスユニック中高一貫校生

円山校 札幌駅前校 麻生本校

保護者の皆様へ

理事長・校長 福島 新四郎

今年は大雪で大変でしたが、ようやく少し春めいて、道路の雪や氷が溶け始め、日差しも強くなってきました。春が近づきましたね。保護者の皆様も多少安堵しているのではないのでしょうか。

さて、今月は特に年度末の春休みも始まりますので、学校休み期間に将来一番身近な目標となる「大学受験」についてじっくりと考えをめぐらせておくことをお勧めし致します。

大学に合格するためには、大学受験がいかなるものなのか、まずその内容を知る必要があります。いわゆる進学校の高校生とそうでない学校の高校生との大きな差は、実は大学受験そのものを知っているか否かにあります。つまり、生徒の日常に大学受験の情報が行き渡っているか否かなのです。

大学受験を成功させるためには、大きく二つの要素が不可欠です。

一つは、「大学受験選抜の仕組みを熟知していること」であり、もう一つは「各大学が要求する水準の教科内容に習熟していること」です。これらは頻繁に変化していますが、まさしくその変化に対応できるのが「大学受験予備校」なのです。日常は部活や学校行事等、諸事忙しい生活です。予備校を上手に活用して、到達点に向かって的を絞った学習を日々進めていくことが重要です。

2022年、実施2回目となる「大学入学共通テスト」について国語・英語・数学の各教科担当のクラス専任教師が出題傾向、難易度、内容他多方面から分析し総括、講評しましたのでご覧ください。

共通テスト—国語 担当：国語科 佐谷

○今年度難しくなった点

昨年より7点程度平均点が下がったが、主として平均点を下げたのは古文であった。自己採点の結果からみるかぎり、現代文、漢文については誤差程度の違いしかない。全体を通して二つの文を出して比較すること、まとめのメモ、ノートを作ってみせて対応させるといった新傾向はそのまま続いている。古文は出題の本文がやや難しく、注が多くなっているため、これをキチンとチェックできたかどうか、チェックのための時間を作れたかどうかで差が出た。

○今後の「国語」学習に意識することは？

1. 二文出題では、解答する前に両方の全文を読み、注をチェックできる時間をつくり出すために、普段から精読と速読を交互に行い、読解速度をあげよう。
2. 古文の速読・速解ができるように、ゆっくり音読・速く黙読を交互に練習しよう。
3. メモ、ノート、二文の対応の出題に慣れるために、過去問、問題集を解こう。

共通テスト—英語 担当：英語科 許士

【リーディング】

単語数は昨年の4200語から4450語と増加したが、平均点は昨年度60.7点から63.8点となった。読み切れなかった生徒も多くいたものと思われるが、難易度としては昨年と同等であり、更に各大手予備校の出す模試とほぼ同じ形になっていたため生徒の対策が進み、結果的に平均点に大きな変動がなかったものと思われる。

昨年度の出題の通り、様々なテキスト・図から①概要や要点を把握する力、②必要とする情報を読み取る力を測るというねらいにそった形の出題であるため、そもそも受験生が全てを精読することは求めていないと思われる。また、問題構成のみならず設問・点数配分の構成も昨年度同様、大問によって大きく点数差が出ない

形になっているため、どの形式もまんべんなく練習する必要があるだろう。

【リスニング】

平均点は昨年の 56 点から今年度は 59 点と、難易度は昨年並みか易化。昨年度の第 6 問 B において難易度が高かった、4 人がディベートする内容をまとめるものについては、昨年度の問題評価・分析委員会が求めている通りの形になり易化・標準化したように思える。また、例えば昨年度の問題のように” It doesn't matter.”と読まれていたものが選択肢の中では”It shouldn't be a priority.”とされるなど、聴こえてきた単語に限らないパラフレーズされた同意の英文に対応が必要となることは変わらず、瞬時に「和訳する」能力ではなく、瞬時に「相手の言いたいことを捉える」能力を求めていることが明らかである。

【今後の学習対策】

- 一文を構文を把握して正確に読む
- 段落などまとまりのある文の要旨要約を捉えながら読む・聴く
- 設問から必要とされる情報を判断してから読む・聴く

共通テスト—数学 担当：数学科 新保

数学 I A・II B ともに平均点が大幅に低下。特に I A は平均点が 37.96 点と、センター試験時代も含め、過去最低を記録した。

【数学 I A】

第 1 問[3]は、正弦定理の応用問題であった。良問ではあるのだが、ヒントも少ないので、時間内に解き切るのは困難なうえに、厳密な議論なしに答えを出してしまうものもあるという欠点もあった。

第 2 問[1]は、2 次関数・集合と命題の融合問題であった。これも第 1 問[3]と同様に、良問ではあるが、最後の小問は q に具体的な数値を代入してしまえば、厳密な議論なしに答えが出てしまう。

第 4 問は、整数の問題で、完全に 2 次試験レベルであった。思考力も問われるうえに、最後の小問は膨大な数値計算が要求される(ちなみに、膨大な数値計算が必要な問題は、第 2 問[2]データの分析にもある)。よっぽどの暗算力でもない限り、時間内(配点から考えて 14 分)に完答するのは不可能に近い。

【数学 II B】

第 4 問は、数列の問題で、冒頭の文章が異常なほど長く、これを読んでいるうちにどんどん時間が経過してしまう。ただし、内容はそれほど難しくはないので、長い文章からどれだけ迅速に必要な情報を取捨選択する力が必要となる。逆に言えば、数学の能力はそこまで必要なかったと言えよう。

数列以外の分野に関しても、誘導も親切であり、レベル自体はそこまで高くはなかった。それでも平均点が 43.06 点と大きく下がったのは、問題文の長さや分量の多さによるものと思われる。あるいは、数学 I A のショックが数学 II B にも影響したのかもしれない。

【今後の共通テストに向けて】

基本事項の徹底は当然であるが、それだけでは、今年のような共通テストでは全く歯が立たない。見たことのある問題は当たり前のように解けるようになり、そのうえで初見の問題にどんどん立ち向かっていかなければならない。大学入試数学では、「経験」は必要不可欠である。「経験」を多く積むには、長い時間を要する。だから、数学は日常学習が大切なのである。

最後に数学だけでなく、現代文の勉強も疎かにしてはならないということをつけ加えておきます。

事務局よりお知らせ

麻生校舎リニューアル工事は先月 19 日(土)から始まっております。又札幌駅前校防音壁工事は 29 日夜から 4 月 1 日までを予定しています。この間なにかとご迷惑をおかけすることになりますがご了承下さい。

<3月~4月の予定>は右側の「QRコード」からHP上でご覧下さい。
緊急時連絡はラインでお知らせ致します。



麻生本校 ☎011-716-7162 札幌駅前校 ☎011-299-6030
円山校 ☎011-613-7755

麻生本校 高校部



札幌駅前校 高校部



円山校 高校部



円山校 中学部

